

平成25年度 再評価対象事業一覧表（農業農村整備・県事業）

番号	事業名	地区名等	箇所名	基本諸元（全体事業費・受益面積等）			事業採択	経過年数	区分	事業費進捗率（%）	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	受益面積 ha	事業内容						
1	中山間地域総合整備事業	むぎ 牟岐	牟岐町	1,176	33.8	農業用排水路 2,810m ほ場整備9.9ha 営農飲雑用水施設整備3地区	H16	10	③	69	<p>本地区は、徳島県の南部海部郡に位置する中山間農業地帯で、地形は急峻な地域であり農地はほとんどが不整形で小規模である。本地域の農業の現状は、過疎・高齢化・担い手の減少及び鳥獣被害等から農業経営に大きな影響を与えている。</p> <p>このことから、老朽化した排水路を整備し、優良農地の保全を進め農業生産の確保、農業所得の安定を図ると共に、不整形で小規模な農地において、ほ場整備を実施し、農地の効率的利用と機械化による営農環境の改善を図る。また、営農飲雑用水等の生活環境整備を実施することにより、総合的な地域振興を図ることを目的としている。</p> <p>牟岐土地改良区をはじめ地元受益農家、牟岐町から、計画を見直しの上、早期完成を強く要望されている。</p> <p>平成26年度完了予定。</p>	見直して継続
2	広域営農団地農道整備事業	よし 徳島東部 3期	徳島市・勝浦町・上勝町・佐那河内村	3,590	1,806	農道工4,327m	H16	10	③	84	<p>本地区は、園瀬川、勝浦川沿いに広がる中山間農業地帯であり、すだちや菌床しいたけ、畜産（ブロイラー）の生産が盛んである。地域内の既設道路は、農業生産の中心である中山間地の農地を結ぶ幹線道路がなく、生産農家は農産物の運搬や通作等に多大な労力を要していることから、基幹農道となる広域農道の整備により農業輸送の経費節減や通作時間の短縮を図ることを目的とする。また、併せて農村の生活環境の改善を図る。</p> <p>完了予定は、平成27年度</p>	継続
3	かんがい排水事業	そえだに 曾江谷	美馬市	6,850	218.0	ダム工1ヶ所 管水路工 11,115m	S55	34	⑥	99	<p>本地区は、曾江谷川沿岸の中山間地域にあり古くから畑作が行われてきたが、農業用水に恵まれていなかったため、収益性の高い畑作物の栽培が困難であった。そのため、ダムにより農業用水を確保し、パイプラインによる畑かん施設を整備することにより収益性の高い農作物を導入し、農業経営の安定を図る。</p> <p>平成26年度完了予定。</p>	継続
4	かんがい排水事業	かみいた 上板	上板町	2,512	278.0	排水路工1,060m	H6	20	⑥	43	<p>本地区は、高志川周辺の低平地に位置し、洪水のたびに湛水被害を生じており、農作物に多大な影響を与えている。排水不良の最大の要因は、老朽化した六条暗渠の通水能力不足であるため、本事業により六条暗渠の通水能力を増大させ、排水条件を改良するとともに、生産性の高い農業経営の実現を図る。</p> <p>平成33年度完了予定。</p>	継続
5	地すべり対策事業	さなごうち 佐那河内 東2期	佐那河内村	150	120.6	排水ホ-リング 1,740m 排水路工860m 承水路工160m 集水井工2箇所	H21	5	②	50	<p>本地区の地質は、御荷鉢帯緑色岩と三波川結晶片岩類を基盤とし、断層破砕帯および風化岩が覆っている。ここを流れる浸透水が集中豪雨時に増大し、これに起因する間隙水圧の上昇により地すべり現象が生じている。</p> <p>このため、本地区内で地すべり対策事業を施行し、農地、農業用施設並びに周辺農家や公共施設等の被害を除去、または軽減し、国土の保全と安全で快適な生活環境の実現を図る必要がある。佐那河内村及び地元は、事業の早期完成を強く要望している。</p> <p>平成28年度完了予定。</p>	継続

平成25年度 再評価対象事業一覧表（農業農村整備・県事業）

番号	事業名	地区名等 <small>ふりがな</small>	箇所名	基本諸元（全体事業費・受益面積等）			事業採択	経過年数	区分	事業費進捗率 (%)	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	受益面積 ha	事業内容						
6	地すべり対策事業	あなぶき 穴吹	美馬市	158	507.9	排水ホ-リング 2,645m 排水路工180m 承水路工100m 土留工3箇所	H21	5	②	50	本地区は、吉野川支流穴吹川流域に位置し、基岩は三波川系結晶片岩からなり、上部に風化帯や崩積土層が分布する脆弱層となっている。豪雨時には地下水位が上昇し、湧水も多く、地すべりの要因となっている。 このため地すべり対策工事を実施し、農地・農業用施設をはじめ、人命や公共用施設等の被害を減らし、国土の保全と安全で快適な生活環境の実現を図る必要がある。美馬市及び地元は、早期完成を強く要望している。 平成27年度完成予定。	継続

評価対象の区分

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業箇所
- ②事業採択後5～9年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ③事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ④事業採択後の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所
- ⑤その他社会経済情勢の変化により再評価が必要となった事業箇所
- ⑥再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業箇所

平成25年度 再評価対象事業一覧表（森林整備・県事業、市町村事業）

番号	事業名	路線名	市町村名	基本緒元（全体事業・利用区域面積・延長等）			事業採択	経過年数	区分	工事進捗率(%)	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応方針
				全体事業費 百万円	利用区域面積 h a	延長 m						
7	林道開設事業	いくみやえしせん 生実八重地線	上勝町	4,230	1,290	17,700	S62	27	⑥	69	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような背景の中、当町内林業事業者は高性能林業機械を使用し、積極的に森林施業に取り組んでいる。</p> <p>関係町村をはじめ地元（期成同盟会）の活動も活発で、事業の早期完成を強く望まれている。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから注目されている。</p>	継続
8	林道開設事業	おおがわらあさひまるせん 大川原旭丸線	上勝町・ 神山町・ 佐那河内 村	2,905	1,190	16,240	H3	23	⑥	94	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、当町内林業事業者は高性能林業機械を使用し、積極的に森林施業に取り組んでいる。</p> <p>関係町村をはじめ地元より事業の早期完成を強く望まれており、期成同盟会の活動も活発である。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから注目されている。</p>	継続

9	林道開設事業	いわくら せみ たに せん 岩倉蟬谷線	那賀町	4,040	1,782	19,340	S62	27	⑥	80	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、全国でも有数な林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>本路線は、旧木沢村と旧木頭村の境界周辺の人工林地帯を通過し連絡する計画で、路網が未整備であることから、間伐等の保育が遅れた森林が多く、森林所有者からの要望が強い。また、旧木沢村と旧木頭村を最短距離で連絡し、道路網の幹線となるだけでなく緊急時における岩倉集落の迂回路となり、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいいため、関係町村、森林所有者等は早期完成を望んでいる。</p>	継続
10	林道開設事業	ながやすかいかわせん 長安海川線	那賀町	4,982	2,058	30,404	S62	27	⑥	62	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、全国でも有数な林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>本路線は、旧上那賀町中央部の森林資源が充実した地域を通過する計画で、路網の未整備により間伐等の保育が遅れた森林が多く、森林所有者からの要望が強い。また、地域の主要道である国道193号と国道195号の災害時等の迂回路となり、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいいため、関係町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。</p>	継続

11	林道開設事業	よこいしにやません 横石谷山線	那賀町	4,050	1,705	18,100	H5	21	⑥	58	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、全国でも有数な林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>本路線は、那賀町(旧相生町、旧上那賀町)、美波町(旧日和佐町)と町境の人工林地帯を通過する計画で、路網が未整備であることから間伐等の保育が遅れた森林が多く、森林所有者からの要望が強い。</p> <p>また、地域の主要道である国道195号と県道日和佐・上那賀線を連絡し、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいため、関係町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。</p>	継続
12	林道開設事業	たにやまきりごえせん 谷山霧越線	那賀町・ 海陽町	3,124	1,362	14,300	H4	22	⑥	92	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、全国でも有数な林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>本路線は、旧上那賀町、旧海南町、旧日和佐町の町境の森林地域を通過する計画であり、当区域一体の森林は基盤整備の遅れから未整備森林が多く、森林所有者からの要望が強い。</p> <p>また、地域の主要道である国道193号と県道日和佐・上那賀線を連絡し、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいため、関係町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。</p>	継続

13	林道開設事業	ほしごえこうべまるせん 星越神戸丸線	那賀町	4,358	948	16,200	H5	21	⑥	58	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、全国でも有数な林業地帯である当町内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>本路線は、旧上那賀町と旧木頭村との境界稜線周辺の森林地域を通過する計画で、路網が未整備であることから、森林施行が遅れた森林が多く、森林所有者からの要望が強い。</p> <p>また、旧上那賀町と旧木頭村を連絡し、地域の交通ネットワーク上の役割も大きいため、那賀町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。</p>	継続
14	林道開設事業	ぜんどうせん 禅僧線	海陽町	3,240	1,052	12,000	H16	10	③	8	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>こうした中、当路線周辺には当管内では有名な禅僧杉をはじめ、成熟した森林資源を有しており、高性能林業機械を使用した積極的な森林施業が計画されている。</p> <p>適正な森林施業と管理をおこなう上で重要となる当林道に対する期待は大きく、また、緊急時の迂回路等としての機能を有する側面を兼ね備えるため、海陽町、地元住民、森林所有者等は早期完成を強く望んでいる。</p>	見直して継続

15	林道開設事業	あかぼうしせん 赤帽子線	つるぎ町	1,800	1,217	9,600	S61	28	⑥	89	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような中、当路線上部には国有林を有していることから、民有林と国有林の効率的な森林施業を目的とし、新たな取り組みとして民有林と国有林が連携して、路網整備と森林整備を実施すべく協定を締結し、積極的な森林施業に取り組んでいる。</p> <p>地元つるぎ町をはじめ森林所有者等は、停滞している森林施業の活性を図り、地域産業の振興に寄与すること、また、災害時の国道県道等の迂回路として活用できる当林道の早期完成を強く要望している。</p>	継続
16	林道開設事業	かじやまうちたせん 梶山内田線	美馬市	4,785	1,477	18,556	H4	22	⑥	52	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような背景の中、当市内林業従事者は高性能林業機械を追加購入し、積極的に森林施業に取り組んでいる。</p> <p>適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道や県道にも接続していることから災害等緊急時の迂回路として利用でき、地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。</p>	継続

17	林道開設事業	たのうちつゑたてせん 田野内杖立線	美馬市	4,946	1,331	19,850	H5	21	⑥	55	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密度網と高性能林業機械を組み合わせさせた新システム」の整備、普及を進めており、高密度網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような背景の中、当市内林業従事者は高性能林業機械を追加購入し、積極的に森林施業に取り組んでいる。</p> <p>適正な森林の整備を行う上で骨格となる当林道に対する期待と要望は非常に大きく、また、5つの林道に接続し国道にも接続しており、災害等緊急時の迂回路として利用できることから地元美馬市をはじめ森林所有者等、早期完成を強く要望している。</p>	継続
18	林道開設事業	かわさきくにみやません 川崎国見山線	三好市	6,400	2,717	20,840	S61	28	⑥	64	<p>高度成長期以降、低価格の輸入木材や社会状況の変化により林業の低迷、担い手不足など林業を取り巻く環境は厳しく、林業従事者は平成17年までにはピーク時の1割強まで減少した。しかし、度重なる異常気象による被害にみまわれ、環境保護が叫ばれるなか1997年の京都議定書をきっかけに森林の持つ様々な公益的機能が注目されることとなった。</p> <p>一方、県の取組としては、平成17年度から2年間「林業再生プロジェクト」、平成19年度からは「林業飛躍プロジェクト」を立ち上げ林業再生に取り組み、平成23年度から10年間「次世代林業プロジェクト」を展開し、県産材の生産量・消費量の倍増を目標とし取り組んでおり、林業従事者は、増加に転じている。</p> <p>しかしながら、本県の森林資源（蓄積量）はこの半世紀で3倍まで増加し、なおも増加し続けており、特にスギの人工林は、今後5年間で50年生以上が半数以上を占め森林の整備が急務である。このことから、近年高密度網と高性能林業機械を組み合わせさせた新間伐システムが普及し、低コストによる搬出間伐に期待が寄せられており、効率的な森林施業のための重要な基盤となる林道には、関係市町をはじめ地元関係者から要望が挙がっている。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから注目されている。</p> <p>地元三好市をはじめ森林所有者等も、地域林業及び地域の活性化のために早期完成を強く望んでいる。</p>	継続



19	林道開設事業	ひわちやさかせせん 日和茶坂瀬線	三好市	6,250	3,342	32,700	H2	24	⑥	69	<p>・円高の下での輸入木材製品の増加や経済情勢の悪化による木材需要量の低下など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい。こうした情勢の下、山村地域の主要産業である林業の持続的かつ健全な発展が望まれ、また、異常気象による土砂災害の防止や二酸化炭素の固定など地球温暖化の抑制に役立つ森林の多面的機能の維持が求められている。</p> <p>・本県の森林資源は、この半世紀で、3倍に増加している。特に、スギの人工林は50年生以上が半数以上を占め、成熟期を迎えている。</p> <p>・こうした中、県は、平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目標にした「次世代林業プロジェクト」を推進しており、木材生産量の増加、林業従事者の増加など成果を上げている。</p> <p>・木材生産部門においては、従来の架線系木材搬出システムに比べ、2倍以上の生産性を有する「高密路網と高性能林業機械を組み合わせた新システム」の整備、普及を進めており、高密路網の中核となる林道の整備を急ぐ必要がある。</p> <p>このような背景の中、当市内の林業は、建設業から林業へ参入するなど林業振興の向上が見られる。</p> <p>林道の開設が進むことで森林へのアクセスが向上することにより、森林所有者の関心が高まり森林施業の実施に繋がる。このことから、適正な森林管理が行われ長期的な森林資源の循環が行われると共に森林資源の向上に繋がる。このことにより雇用も安定し林業関係は勿論のこと地域全体の活性化が図られる。また、緊急時の避難路及び迂回路の機能も持ち合わせることから地元三好市をはじめ森林所有者等も林道の開設を強く望んでいる。</p>	継続

評価対象事項の区分

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業箇所
- ②事業採択後5～9年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ③事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ④事業採択後の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所
- ⑤その他社会経済情勢の変化により再評価が必要となった事業箇所
- ⑥再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業箇所

平成25年度 再評価対象事業一覧表（水産基盤整備・県事業）

番号	事業名	ふりがな 漁港名等	ふりがな 箇所名	基本総元 (全体事業費・工種等)		事業 採択	経過 年数	区分	事業費 進捗率 (%)	事業を巡る社会経済情勢の変化及び地元状況等	対応 方針
				全体事業費 百万円	工種・数量等						
20	海岸保全施設整備 事業（高潮対策）	つばきとまりぎょこう 樺泊漁港 かいがん 海岸	あなんし 阿南市	5,100	護岸新設 L=1,314m	S61	30	⑥	83	<p>本事業の目的は、護岸の整備を行うことで、高潮、高波による越波を防止し、地域住民の生命・財産への被害防止を図ることである。</p> <p>当地区は、阿南市東部の樺泊半島南側の樺泊町に位置し、急峻な山が海に迫る狭隘な土地に人家が密集している。また、津波の被害が大きくなりやすいV字型湾であり、近年各地で高潮や津波の被害が発生していることから、事業の早期完成が地元住民から強く求められている。</p> <p>当地区の既設護岸は老朽化が著しいため、本事業の完了箇所は護岸効果を上げている。</p>	継続

評価対象事項の区分

- ①事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業箇所
- ②事業採択後5～9年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ③事業採択後10年間を経過した時点で継続中の事業箇所
- ④事業採択前の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所
- ⑤その他社会経済情勢の変化により再評価が必要となった事業箇所
- ⑥再評価後5年間を経過した時点で継続中の事業箇所

平成25年度再評価対象事業一覧表（県土整備部関係）

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元	事業採択年度	経過年数	区分	進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費C(百万円)等				事業費	用地		
1	街路事業	徳島県	と びがしの上のちようきたおきのすせん (都) 東吉野町北沖洲線	徳島市	L=2,882m、W=21.0m C=13,200百万円	S56	32	⑥	93	94	当路線は市内中心部の渋滞解消に寄与する放射道路の一部であり、一般国道11号吉野川大橋南詰からマリンピア沖洲や徳島東IC（仮称）へのアクセス道路としての機能を有する。平成28年度の供用を目指している。	継続
2	広域河川改修事業	徳島県	いのおがわ 飯尾川	徳島市 石井町 吉野川市	L=24,100m 河道拡幅 C=23,490百万円	S34	55	⑥	87	93	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長24.1kmのうち2箇所のみ放水路を含む約18kmの整備が概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成35年度の完成を目指している。	継続
3	広域河川改修事業	徳島県	そのせがわ 園瀬川	徳島市	L=7,515m 築堤 C=17,400百万円	S21	68	⑥	92	95	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長7.5kmのうち下流から約4.5kmが概成しているが残る上流部の無堤区間においては、流出能力が不足しているため、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成29年度の完成を目指している。	継続
4	広域河川改修事業	徳島県	たたらがわ 多々羅川	徳島市	L=4,560m 河道拡幅 C=7,000百万円	S54	35	⑥	65	75	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長4.6kmのうち下流から約3.1kmが完成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成33年度の完成を目指している。	継続
5	広域河川改修事業	徳島県	くわのがわ 桑野川	阿南市	L=9,750m 河道拡幅 C=14,000百万円	S31	58	⑥	94	97	当河川は、那賀川水系の河川であり、平成20年、21年、22年において浸水被害が発生した。全体改修延長9.8kmにおいて、暫定改修が概成しているが、計画断面には断面が不足しているため、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成29年度の完成を目指している。	継続
6	広域河川改修事業	徳島県	おかがわ 岡川	阿南市	L=3,400m 築堤 C=4,000百万円	S46	43	⑥	61	74	当河川は、那賀川水系の河川であり、平成16年において浸水被害が発生した。全体改修延長3.4kmのうち清水橋下流の約1.0kmについて概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く早期改修を望む地元からの要望が強い。平成35年度の完成を目指している。	継続
7	広域河川改修事業	徳島県	なかがわ 那賀川	那賀町	L=2,300m 築堤 C=2,635百万円	S48	41	⑥	63	17	当河川は、平成21年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長2.3kmのうち築堤については概成しているが、残る浸水防止施設の早期改修を望む地元からの要望が強い。平成32年度の完成を目指している。	継続
8	広域河川改修事業	徳島県	かつらがわ 勝浦川	徳島市 小松島市	L=8,200m 築堤 C=6,940百万円	S11	78	⑥	71	98	当河川は、平成16年において浸水被害が発生した。全体改修延長8.2kmのうち築堤については概成しているが、残る堰の早期改修を望む地元からの要望が強い。平成31年度の完成を目指している。	継続
9	総合流域防災事業	徳島県	たの がわ 田野川	小松島市	L=4,480m 河道拡幅 C=7,200百万円	S52	37	⑥	97	99	当河川は、立江川水系の河川であり、平成16年、21年において浸水被害が発生した。全体改修延長約4.5kmのうち、立江川合流点から約4.3kmが完成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成29年度の完了を目指している。	継続
10	総合流域防災事業	徳島県	たづがわ 立江川	小松島市	L=3,000m 河道拡幅 C=3,950百万円	S63	26	⑥	70	68	当河川は、平成16年において浸水被害が発生した。全体改修延長3.0kmのうち、下流から平成橋まで約1.7kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成35年度の完了を目指している。	継続
11	総合流域防災事業	徳島県	ほたるがわ ほたる川	吉野川市	L=3,280m 河道拡幅 C=4,010百万円	S49	40	⑥	90	95	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、23年において浸水被害が発生した。全体改修延長約3.3kmのうち、西前川橋までの約2.6kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成30年度の完成を目指している。	継続

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元	事業採択年度	経過年数	区分	進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費(C(百万円)等)				事業費	用地		
12	総合流域防災事業	徳島県	まえばがわ前川	藍住町	L=1,250m 河道拡幅 C=2,600百万円	S56	33	⑥	98	99	当河川は、吉野川水系の河川であり、平成16年、21年において浸水被害が発生した。全体改修延長約1.3kmのうち、前川池の下流付近まで約1.2kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成27年度の完成を目指している。	継続
13	総合流域防災事業	徳島県	おおつだ がわ 大津田川	阿南市	L=1,450m 河道拡幅 C=1,000百万円	S45	44	⑥	80	96	当河川は、那賀川水系の河川であり、平成16年、21年において浸水被害が発生した。全体改修延長1.4kmのうち、合流点付近から約0.3kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成29年度の完成を目指している。	継続
14	総合流域防災事業	徳島県	ふくい がわ 福井川	阿南市	L=6,500m 築堤 C=7,000百万円	S56	33	⑥	77	72	当河川は、平成20年、22年において浸水被害が発生した。全体改修延長6.5kmのうち、露田橋まで約2.3kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成32年度の完成を目指している。	継続
15	総合流域防災事業	徳島県	しくいがわ 突喰川	海陽町	L=3,560m 築堤 C=2,800百万円	S37	52	⑥	77	86	当河川は、平成18年において浸水被害が発生した。全体改修延長約3.6kmのうち、馳場大橋まで約3.0kmが概成しているが、残る上流部の河道断面が狭く、早期改修を望む地元からの要望が強い。平成32年度の完成を目指している。	継続
16	海岸侵食対策事業	徳島県	いまづきの かいがん 今津坂野海岸	小松島市、阿南市	L=6,637m 大型突堤工、養浜工、緩傾斜護岸工 C=12,332百万円	S36	53	⑥	64	-	当海岸は、県東部の小松島市と阿南市にある南北に延びた延長約6.6kmの海岸である。漂砂のバランスが崩れ海岸侵食が進み、台風等の暴風時には、波しぶきが飛散してくるなど背後地の生活に脅威を与えていることから、当事業により海浜及び背後地の面的防御を図るものである。平成49年度の完了を目指している。	継続
17	地すべり対策事業	徳島県	あるせ 有瀬	三好市	横ボーリング工、水路工、アンカー工、集水井 C=2,435百万円	S46	43	⑥	85	100	当地区は、徳島県三好市西祖谷山村に位置し、人家57戸、有瀬小学校（避難所）、市道などが存在する。斜面状況は、市道擁壁や路面にクラックなどの変状が多数見受けられ、観測により変位も確認されるなど地すべり変動が活発である。平成30年度の概成を目指している。	継続
18	地すべり対策事業	徳島県	あなぶきうがわ 穴吹右岸	美馬市	横ボーリング工、水路工、集水井 C=430百万円	H16	10	③	84	100	当地区は、徳島県美馬市穴吹町に位置し、人家15戸、市道2.5km、耕地1.8haなどが存在する。斜面状況は、民家土間コンや町道路路面の変状など地すべり兆候が多数見受けられるとともに湧水もあることから、地すべりの危険性が高かった。平成27年度の概成を目指している。	継続
19	地すべり対策事業	徳島県	あなぶきうがわ 穴吹左岸	美馬市	横ボーリング工、水路工 C=520百万円	H16	10	③	59	-	当地区は、徳島県美馬市穴吹町に位置し、人家18戸、国道1.3km、市道3.6km、耕地3.9haなどが存在する。斜面状況は、石積のはらみだしや民家土間コンのクラックなど地すべり兆候が多数見受けられ、地すべりの危険性が高かった。平成29年度の概成を目指している。	継続
20	緊急地方道路整備事業	徳島県	一般国道193号 かいがねだに 海川谷バイパス	那賀町	L=2,370m,W=5.5(7.0)m C=3,300百万円	H11	15	⑥	40	40	当路線は、香川県高松市から徳島県那賀郡那賀町を経由し、海部郡海陽町に至る幹線道路で第3次緊急輸送道路に指定されている。当該区間は地域の住民生活を支える重要な道路であるが、幅員狭小で線形不良区間も連続し、交通の隘路となっていることから、当該事業により安全で円滑な交通を確保する。平成35年度の完成供用を目指している。	見直し 継続
21	道路改築事業	徳島県	一般国道195号 でかい おおと 出合大戸バイパス	那賀町	L=2,200m,W=6.0(8.0)m C=8,500百万円	H6	20	⑥	74	100	当路線は、高知県高知市から徳島県那賀郡那賀町を経由し、徳島市に至る幹線道路で第2次緊急輸送道路に指定されている。当該区間は観光地へのアクセスとしても重要な道路であるが、落石危険箇所が多数存在するうえ、県内で唯一信号制御により交互通行が行われており、交通の隘路となっていることから、当該事業により安全で円滑な交通を確保する。平成29年度の完成供用を目指している。	継続

番号	事業名	事業者	路線名・河川名等	市町村名	基本諸元		事業採択年度	経過年数	区分	進捗率(%)		事業を巡る社会経済情勢・地元状況の変化等	対応方針
					全体事業費 C(百万円)等					事業費	用地		
22	道路改築事業	徳島県	一般国道438号 かびはちまん 上八万バイパス	徳島市～ 佐那河内村	L=5,500m W=6.5(8.0)～6.5(15.0)m C=12,500百万円		S63	25	⑥	68	69	当路線は、徳島県徳島市から佐那河内村を經由し、香川県坂出市に至る幹線道路で第2次緊急輸送道路に指定されている。当該区間は朝夕を中心に渋滞が発生し、円滑な通行に支障をきたすとともに、交通事故が多発していることから、当該事業により安全で円滑な交通を確保する。	継続
23	緊急地方道路整備事業	徳島県	しゅ とくしまかんじょうせん (主) 徳島環状線 かわうちこうく 川内工区	徳島市	L=4,200m,W=14.0(30.0)m C=30,000百万円		H11	15	⑥	75	84	当路線は、徳島市国府町を起点とし、藍住町を經由して徳島市八万町に至る延長約25kmの幹線道路である。 当該工区は、「徳島環状道路」の東部分である「徳島東環状線」の一部を構成する区間であり、国道11号、55号の交通を分散させ、交通の円滑化を図るべく事業を実施しており、平成24年度までに阿波しらさぎ大橋～国道11号間が供用を開始した。 残る国道11号交差部については、徳島環状道路全体の進捗状況等今後の道路環境の変化を見極めた上で、着手時期を検討したい。	休止
24	緊急地方道路整備事業	徳島県	しゅ なると こうえんせん (主) 鳴門公園線 とさ とまりうら み いしこうく 土佐泊浦～三ツ石工区	鳴門市	L=1,600m,W=6.5(11.75)m C=4,300百万円		H16	10	③	14	48	当路線は、鳴門公園から国道11号に至る延長約9kmの幹線道路であり、本州四国連絡道路鳴門北ICへのアクセス道路となる路線である。 当該工区は、鳴門公園から国道11号までを連絡する区間のうち、黒山地区から三ツ石地区を整備する事業であり、当該工区の実施により、鳴門公園周辺の観光交流基盤の形成や地域防災力の向上を図る。平成33年度に暫定2車線による供用開始を目指している。	継続
25	港湾改修事業	徳島県	とくしまこまつしまこう おきのすちく 徳島小松島港 沖洲地区 りんこうどうろ おきのすてとせん 臨港道路沖洲(外)線	徳島市	L=1,410m,W=13.0(21.0)m C=4,000百万円		H6	20	⑥	85	100	当路線は、市街地からマリンピア沖洲へと連絡する区間であり、現在ある沖洲(外)中央線及び沖洲(外)南線の交通を分散させ、交通の円滑化を図るために事業を実施している。平成22年3月に900mの区間において暫定供用を開始し、残る区間について、平成31年度の完成を目指している。	継続

評価対象事項の①～⑦の区分

- |                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| ① 事業採択後5年目で未着工の事業箇所            | ⑤ その他、社会経済情勢の変化等により見直しが必要な事業箇所 |
| ② 事業採択後5年～9年目で継続中の事業箇所         | ⑥ 再評価後5年間を経過した事業               |
| ③ 事業採択後10年目で継続中の事業箇所           | ⑦ 事後評価対象                       |
| ④ 事業採択後の準備・計画段階で5年間が経過している事業箇所 |                                |